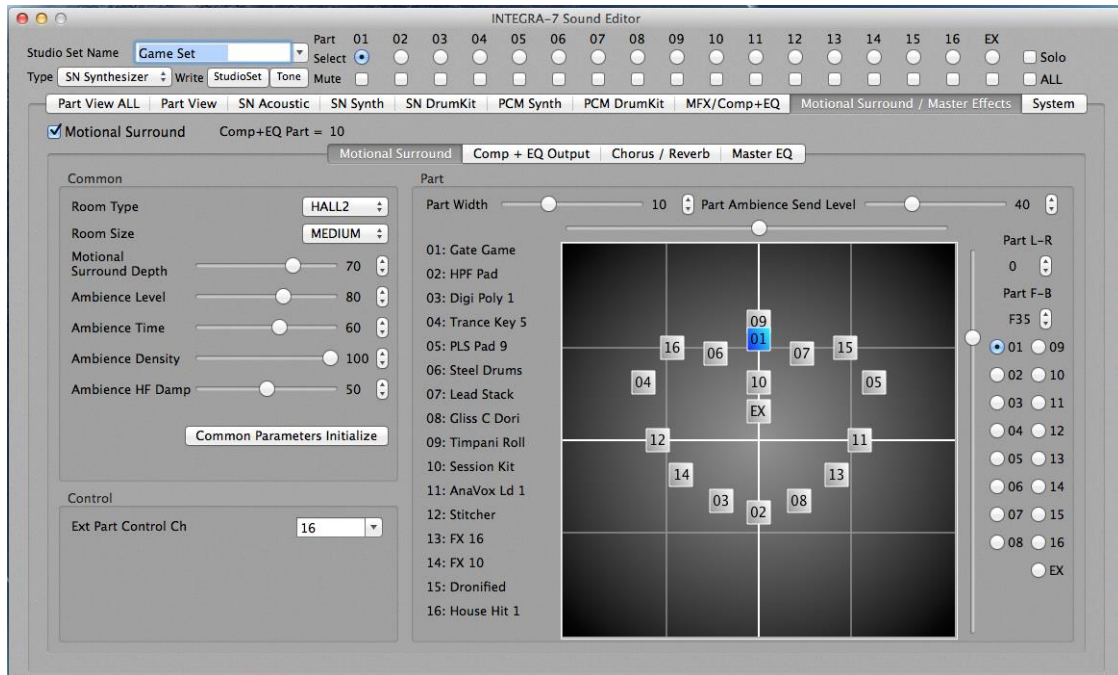


INTEGRA-7 Sound Editor



<概要>

本ソフトは、Roland Integra-7 をリモート操作し、音色を作成出来るメーカー非公認エディタソフトです。MIDI で操作出来るパラメータ全てを網羅しています。パラメータは基本的に Integra-7 の画面の順番通りに並んでおり、狭い画面で操作するよりも効率よく音色作成が出来ます。

<動作環境>

CPU : Intel Core 2 Duo、Core i3、Core i5、Core i7、または Xeon プロセッサ

メモリー : OS 動作に必要なメモリー 2 GB に加えて本アプリケーション用に 1GB

ディスプレイ : 解像度 1366 x 768 以上

OS: OSX 10.7 Lion 以降 (64bit アプリケーションとして動作します)

＜Integra-7 と PC の接続＞

基本的に USB ケーブルで接続し、「INTEGRA-7 CTRL」で通信する事をオススメしますが、

MIDI インターフェイス機器を通して MIDI ケーブル経由でも通信可能です。

その場合は MIDI ケーブル 2 本を使い、PC 側 MIDIOUT を INTEGRA-7 の MIDIIN、PC 側

MIDIIN を Integra-7 の MIDIOUT に相互接続します。

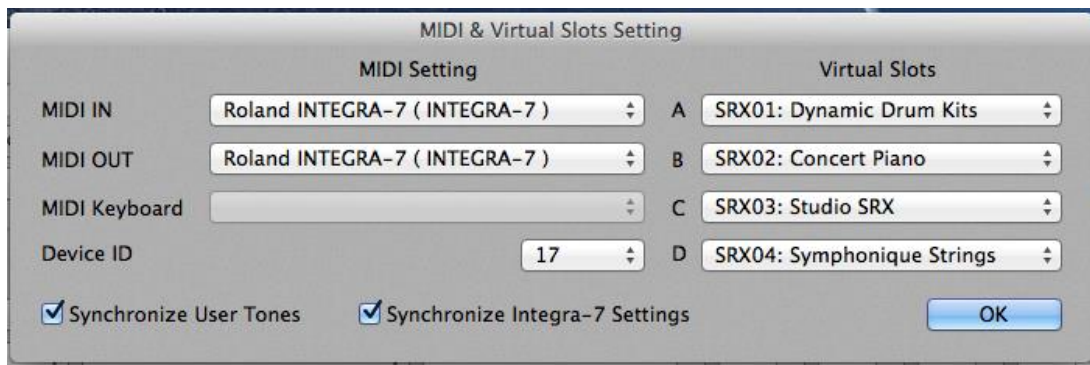
MIDI キーボードは USB または MIDI インターフェイス機器を通して MIDI ケーブル経由で

接続します。キーボードの演奏情報は本ソフトを経由して Integra-7 へ伝わります。

＜ソフトウェア起動時の MIDI とバーチャルスロットの設定＞

MIDI IN、MIDI Out、MIDI Keyboard、デバイス ID（初期値は 17）および読み込むバーチャルスロット A～D を選択します。**バーチャルスロット設定と INTEGRA-7 で読み込んだバーチャルスロットが一致しないと誤動作してしまうので気をつけてください。**

USB 接続の場合 INTEGRA-7 CTRL > INTEGRA-7 > その他という優先順位で選択されます。USB Driver は「VENDER (MIDI+AUDIO)」をオススメします。



Synchronize User Tones は Integra-7 のユーザートーンをエディタと同期させます。

Synchronize Integra-7 Settings は現在の Integra-7 の設定をエディタに反映します。

このチェックを外すと、前回エディタ終了時の状態が再現されます。

OK をクリックすると、進行ゲージが表示され、Integra-7 と同期を開始します。

指定したバーチャルスロットデータがロードされ、現在の Studio Set の内容が本エディタに反映されます。

この画面は Integra-7 Sound Editor > 「MIDI & Virtual Slot Setting」で呼び出せます。

<基本操作>

パラメータのコンボボックスやポップアップボタン、スライダーを操作してパラメーター値を変更します。スライダー横の上下ボタンで上下 1 ずつ変更可能です。

ドラムキットの鍵盤は MIDI キーボードを使って選べます。

まず、MIDI キーボードでエディットしたい鍵盤を演奏します。

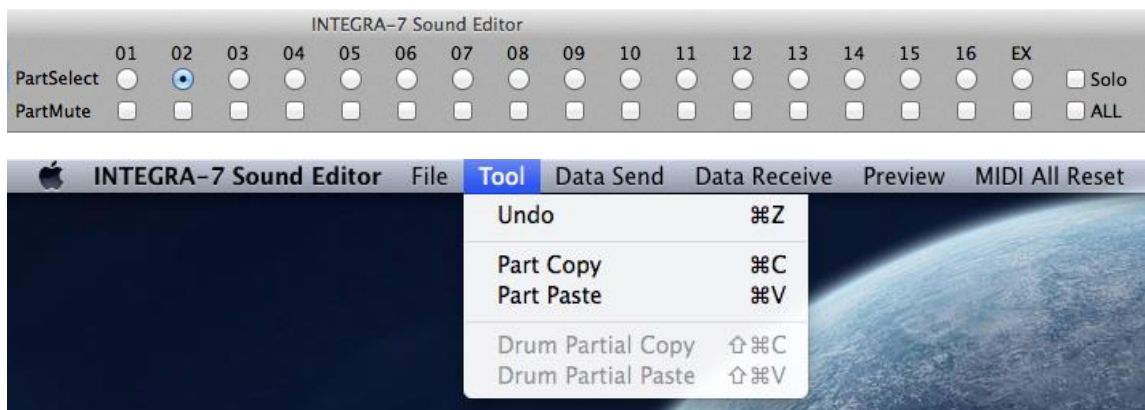
その後、「Play MIDI Keyboard & Click!」というボタンをクリックすると、Current Partial が押した鍵盤に切り替わります。



<コピー機能>

Tool の Copy、Paste でパートの設定をコピー出来ます。コピーしたいパートを選択した状態で Tool の Copy、または Command+C でコピーします。コピーしたいパートを選択し、Tool の Paste をクリック、または Command +V で貼り付けます。直ちに Integra-7 にデータが送信されます。コピーしたパート番号は次にコピーを実行するまで覚えているので、連続で貼り付け出来ます。例えば、4 パートのレイヤーサウンドを作るといった場合に便利です。

※ パートセレクトはこの部分で行います。

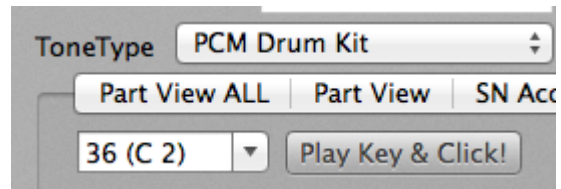
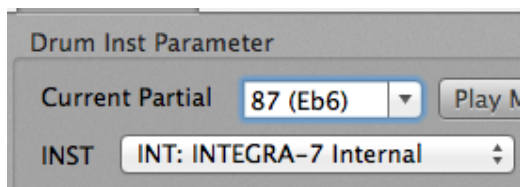


間違えて貼り付けてしまったときは 1 回だけアンドウ（元に戻す）が可能です。Undo をクリックするか Command +Z で戻ります。1 回しか戻せないなので、大幅に変更する場合はファイルセーブしてから実行することをオススメします。

ドラムパート（Super Natulral Drum Kit か PCM Drum Kit）をコピーすると、ドラム設定全てをそのまま、他のパートにコピーすることが出来ます。（SND は 62 鍵盤、PCMD は 88 鍵盤分）

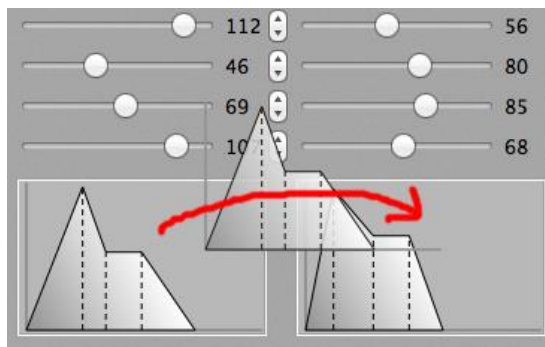
1 鍵盤分のデータを他の鍵盤にコピーしたい場合は Drum Partial Copy（Command+Shift+C）と Drum Partial Paste（Command+Shift+V）を使います。

コピーしたい鍵盤（Current Partial）を選び、Drum Partial Copy（Command+Shift+C）でコピーし、コピーしたい他の鍵盤を選択して Drum Partial Paste（Command+Shift+V）で貼り付けます。こちらも同様に連続コピーが可能です。コピー動作は 1 回分だけアンドゥ機能で戻せます。

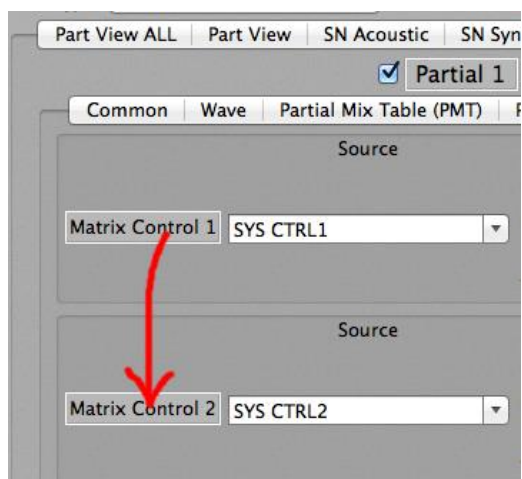


Super Natural シンセサイザーや PCM シンセの場合、パーシャル間コピーが可能です。

エンベロープのグラフ表示、またはパーシャルスイッチ横の「Partial1」や「Wave」といったテキストを左クリックでドラッグし、コピーしたいパーシャルにドロップすると設定がコピーされます。このコピーも一回だけアンドゥ出来ます。

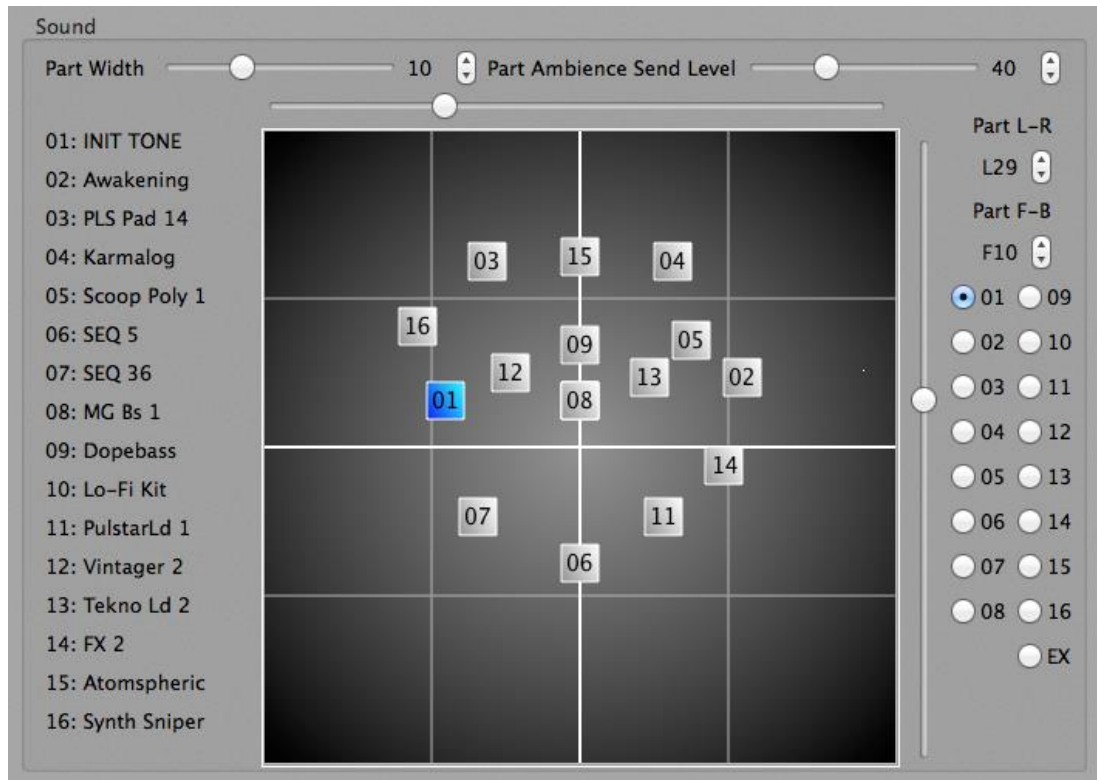


PCM シンセのコントロールマトリックスは「Matrix Control」のテキストをドラッグアンドドロップでコピーできます。



Motional Surround 機能を有効にすると各パートの音声の位置をマウスで操作出来ます。

動かしたいパートを右側から選び、グラフ上で操作してください。



<設定初期化とファイルのセーブロード>

New をクリックすると初期化されます。全パートが SuperNatural アコースティックの初期状態になります。実行前に保存するか聞いてきます。

Open をクリックするとファイル選択ダイアログが起動するので、セーブデータを選んでロードします。(拡張子 i7s) ロードが完了すると、直ちに Integra-7 と同期します。

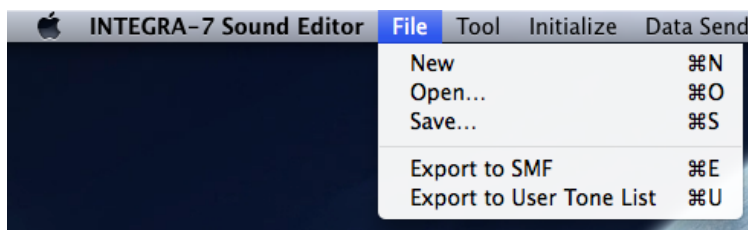
Save は保存です。デフォルトのファイル名は StudioSet の名前になりますが、好きな名前を付けて保存してください。

Export to SMF は Standard MIDI File に全設定をエクスポートします。

Format 1 で保存されており、Windows 以外のユーザーに渡したり、シーケンサーに読み込ませたりして使用できます。

Export To User Tone List はユーザートーンの一覧を CSV 形式でエクスポートします。

Excel や Number といったソフトで読み込んだり出来ます。

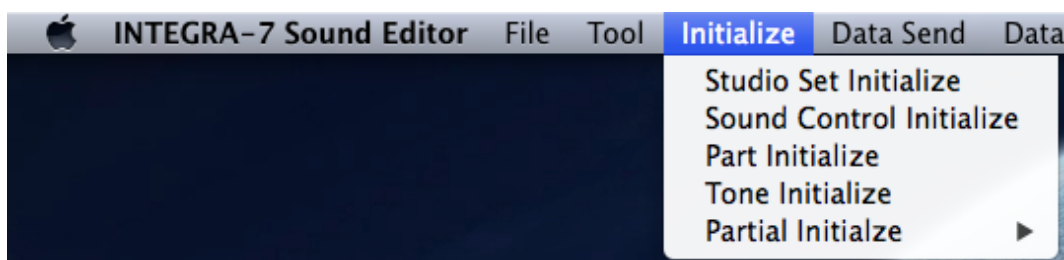


Quit INTEGRA-7 Sound Editor でアプリケーションの終了です。左上の赤いボタンと同じ

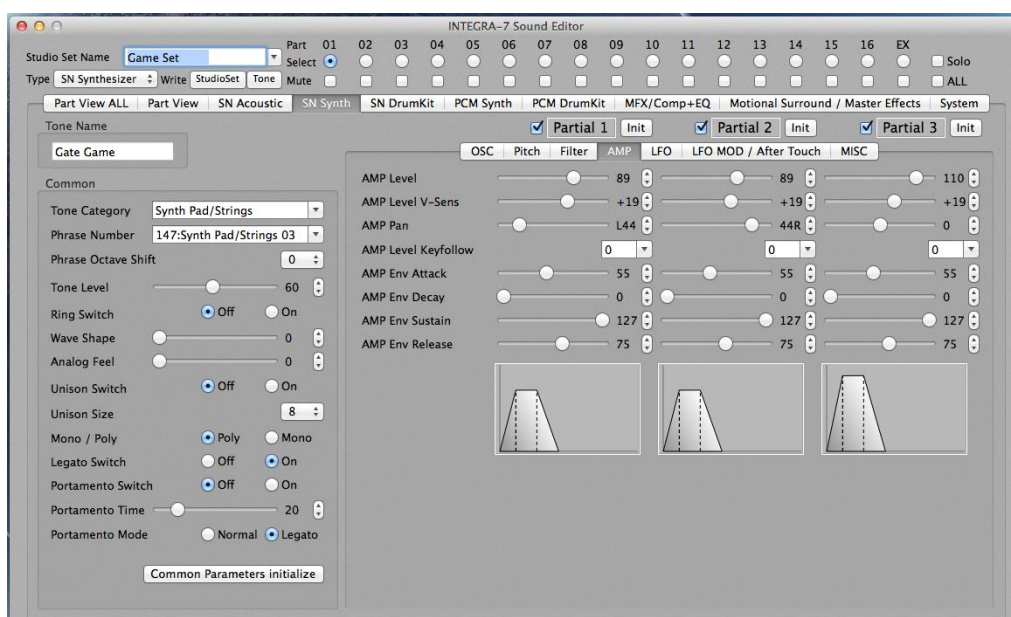
です。もし、データに変更があった場合はセーブするか聞いてきます。



Initialize 機能は各設定を初期化します。Integra-7 の初期化機能を使用して初期化します。

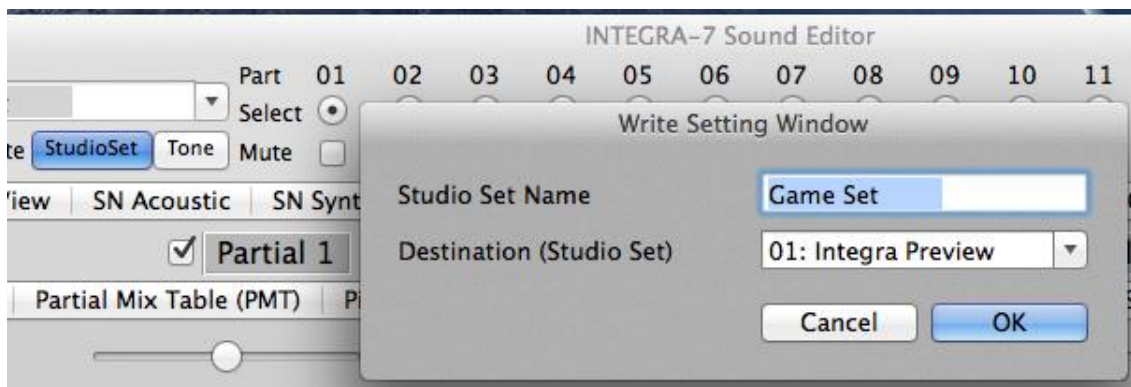


「Partial1」などの横にある「Init」ボタンで、その画面のパーシャルパラメータを部分的に初期化出来ます。

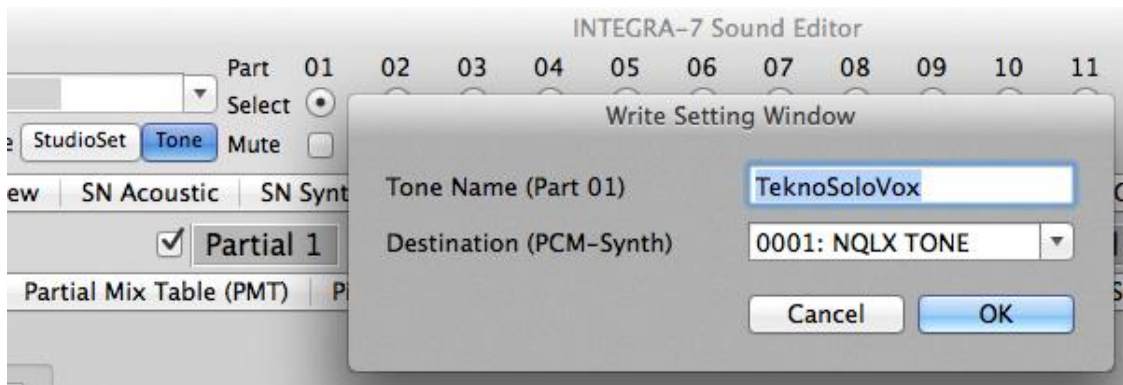


<Integra-7 への保存>

「Write」の隣にある Studio Set ボタンをクリックすると、スタジオセットを直接 Integra-7 本体に保存できます。スタジオセット名を入力し、保存先を選んで OK を押してください。



Tone ボタンを押すと現在選ばれているパートのトーンを直接 Integra-7 本体に保存できます。トーン名を入力し、保存先を選んで OK を押してください。



＜カテゴリーサーチ機能＞

Part View ALL や PartView 画面にある「Search」ボタンをクリックするとカテゴリーサーチ画面が表示されます。

カテゴリー、タイプ、バンクを選び、トーン一覧を表示させて、トーンを選んでください。

トーンを選んだ際、プログラムが切り替わり、トーンが試聴出来ます。

トーンを変更する場合は OK を押してください。キャンセルすると、元のトーンに戻ります。

